自然とともに生きる

本県は、県土の約8割を占める森林や約650㎞に及ぶ海岸線、そこに形成される多様な生態系など、豊かな自然環境から多くの恩恵を受けています。この自然を守り、共生し、継承するには、私たち一人ひとりが日頃から自然に親しみ、日々の活動と環境の関わりを理解しておくことが重要です。

自然を守る

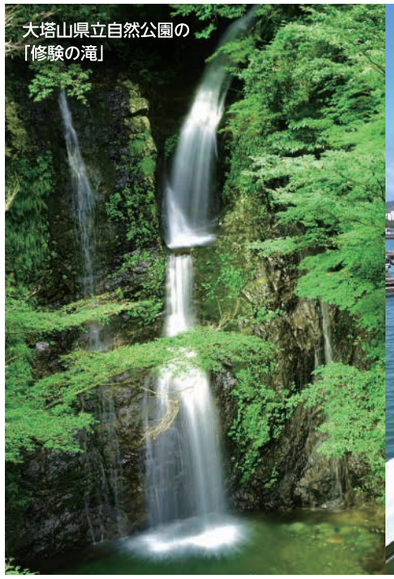
自然林を公有林化

人の手が加わっていない自然林は、貴重な生態系が残るなど、生物多様性の観点から非常に重要です。県では、その保護のため「新紀州御留林」として公有林化を進めています。

外来生物の防除

外来生物は、地域の生態系を壊すだけでなく、農作物被害や水産資源の減少といった悪影響も及ぼすことから、行政と地域の協働による防除活動などを行っています。

外来生物
「アフリカツメガエル」



大塔山県立自然公園の
「修験の滝」

環境学習アドバイザーによる
課外授業

南紀熊野ジオパークガイドによる
ジオツアー

魅力を発信する

県立自然公園

県では、県立自然公園の園地や歩道などの整備を進めており、その魅力や周遊コースなどをWEBサイトで発信しています。

南紀熊野ジオパーク

県南部の「南紀熊野ジオパーク」では、大地が作る独特の景観や多様な動植物、そこから生まれた熊野信仰など数多くの自然や文化を体感できます。それらを「五感」で学べる「南紀熊野ジオパークセンター」や、ガイドがわかりやすく案内する「ジオツアー」、中高生が自然探究活動を行う「ジオパーク探偵団」などを通じて、和歌山が誇る大地の魅力を発信するとともに、ユネスコ世界ジオパークの認定に向けた活動を進めています。

南紀熊野ジオパーク

南紀熊野ジオパーク

環境について学ぶ

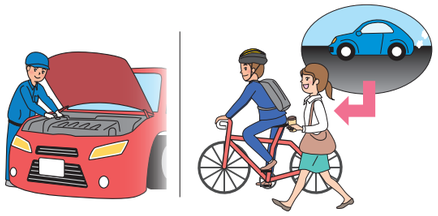
県では、地域学習会などへの環境学習アドバイザーの派遣や、人と自然をつなぐシンポジウムの開催に加え、生物多様性の保全を担う人材を「わかやまネイチャー・アワード」として表彰するなど、環境への関心を高める取組を行っています。

シンポジウムで研究成果を発表

主体的に行動する

一人ひとりの取組

脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」や「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」などの「賢い選択」をしていこうという取組を「COOL CHOICE」といいます。私たち一人ひとりが、できることから、環境に配慮した選択を心がけましょう。



●移動するとき

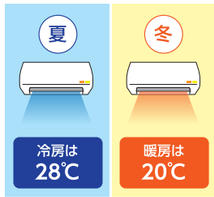
自転車や公共交通機関の利用、低燃費車への乗換えなど、二酸化炭素排出量の少ない移動手段を選ぶ。自動車は、ふんわりアクセルや、定期的な点検整備の実施などによる燃費の向上を図る。

●買い換えるとき

省エネ家電や燃費の良いエコカーなどの環境負荷が少ない製品への買換え。

●空調を使うとき

夏は室温28度、冬は20度を目安に冷暖房を温度設定。暑いときは軽装、寒いときは一枚多く羽織るなど服装にも配慮。



●買い物をするとき

必要な食品のみを計画的に買うことで、食品ロスを減らす。冷蔵庫内にスペースを確保することで冷えやすくし、節電につなげる。

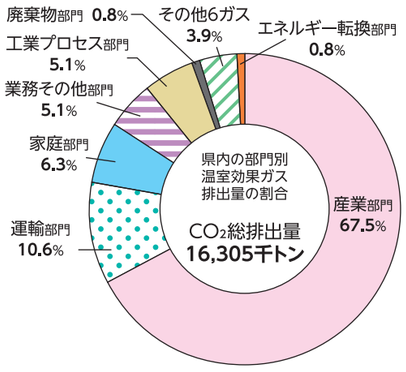
事業者の取組

脱炭素経営をめざして

県内の部門別温室効果ガス排出量は、産業部門が最も多いことから、企業の脱炭素への取組が重要となります。また、そうした取組は、環境への配慮が求められる中で、企業価値の向上だけでなく、新たな事業展開やビジネスチャンスの獲得にも結びつきます。

県では、脱炭素化への取組を企業経営に活かすため、県内企業への啓発や情報発信に取り組んでいます。

県内の部門別 温室効果ガス排出量割合



インタビュー
恵和株式会社
中本 大作 さん

恵和株式会社 和歌山テクノセンター ソーラー発電

弊社では、創業以来「自然と産業の調和を創造する」ことを経営理念に、環境配慮に取り組んできました。県内の工場でも、省エネ設備への更新や太陽光パネルの設置、再生可能エネルギー由来の電力購入などの取組を進めています。こういった取組は、環境配慮が求められるこれからの社会において、取引先の要望に応え、企業価値を向上させるためにも必要なことと考えています。今後も、地元の方々と一緒に、社会に貢献しつつ歩んでいきたいと思います。